

6) 農漁業体験・地産地消・食文化について

- ・農漁業体験への参加については、「ない」が6割強、「ある」が4割弱みられます。参加したことがあると答えた方では、「学校の取組みに参加」が3割弱と最も多く、その他で回答した方では、農家であることや家庭菜園をやっている等の回答もみられます。(図19,20)
- ・農漁業体験の参加意向については、『参加したい』(「ぜひ参加したいと思う」+「内容によっては参加したいと思う」)する回答が6割強と多くなっています。年代別でみると、『参加したい』が10代~40代まで約7~8割と高く、そのなかでも40代で8割と高くなっています。(図21)
- ・子どもたちの食育を進める上で農漁業体験の必要性については、「必要である」とする回答が大半(9割弱)を占めています。

図19 (問30) これまで、あなた又はあなたの家族の中で農漁業体験に参加したことがある人はいますか

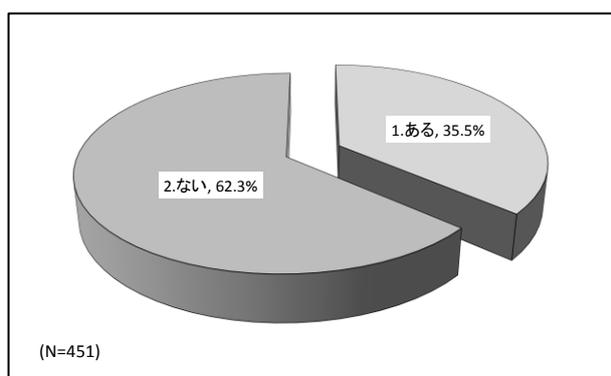
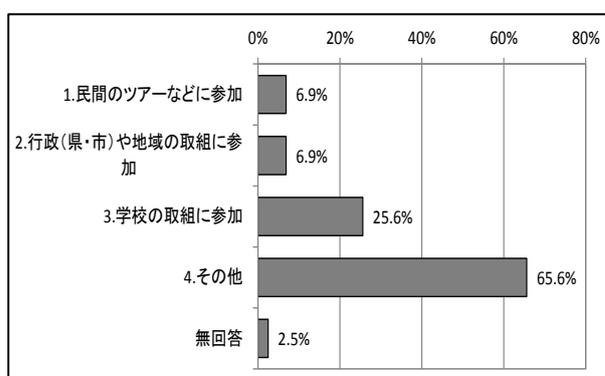


図20 (問30-1) 農漁業体験に参加したときは、どのようなものに参加しましたか



<参考> その他の内訳
 実家が農家/バジル収穫体験/船乗りをしていた
 /家庭菜園をしている/祖父の手伝い/昔は畑や
 田があった/JAの取組みに参加 等

図21 問31 今後、あなたは農漁業体験に参加したいと思いますか

		合計	1.ぜひ参加 したいと思う	2.内容に よってはい 参加したい と思う	3.参加した いと思わな い	4.その他	無回答
全体	総数 (N=451)	451 100.0%	52 11.5%	224 49.7%	139 30.8%	22 4.9%	14 3.1%
	1.18~19歳 (N=4)	4 100.0%	0 0.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
年齢	2.20~29歳 (N=42)	42 100.0%	4 9.5%	27 64.3%	8 19.0%	2 4.8%	1 2.4%
	3.30~39歳 (N=81)	81 100.0%	11 13.6%	52 64.2%	17 21.0%	0 0.0%	1 1.2%
	4.40~49歳 (N=91)	91 100.0%	22 24.2%	51 56.0%	15 16.5%	2 2.2%	1 1.1%
	5.50~59歳 (N=79)	79 100.0%	6 7.6%	36 45.6%	28 35.4%	8 10.1%	1 1.3%
	6.60~69歳 (N=74)	74 100.0%	6 8.1%	35 47.3%	28 37.8%	3 4.1%	2 2.7%
	7.70歳以上 (N=77)	77 100.0%	3 3.9%	19 24.7%	40 51.9%	7 9.1%	8 10.4%
	無回答 (N=3)	3 100.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%	0 0.0%	0 0.0%

上段:実数 下段:横%

- 「地産地消」の考えを知っていると回答は大半（8割強）占めて多いものの、そのうち、実践しているとする回答は5割に留まっています。
- 海産物・農作物直売所（ぎのわんマルシェ等）の利用状況については、「利用したことがない」が4割弱となっており、年代別でみると、20代、70歳以上の利用頻度が低い状況となっています。（図22）
- 宜野湾市の地場産物の認知度については、「知っている」が約6割、「知らない」が4割弱となっています。知っていると答えた方の具体例は、「田芋」が大半を占めています。
- 地域の特産物・郷土料理の認知度や作ることができるかについては、「知っているし作ることができる」が約7割と最も多く、次いで「知っているが作ることはできない」が約2割、「知らない」が1割弱となっており、地域の特産物・郷土料理の認知度は高いことがうかがえます。性別でみると、「知っているし、つくることができる」は女性で8割強、男性で5割強となっており、年代別では、「知っているし、つくることができる」は20代で5割弱と他の年代に比べて低くなっています。
- また、知っているまたは作ることができる郷土料理については、「ゴーヤーチャンプルー」や「中味汁」、「イナムドゥチ」が多くみられます。

図 22
問34 海産物・農産物直売所を利用したことがありますか

上段:実数 下段:横%

		合計	1.よく利用する	2.ときどき利用する	3.利用したことがない	無回答
全体	総数 (N=451)	451 100.0%	71 15.7%	202 44.8%	173 38.4%	5 1.1%
	1.18～19歳 (N=4)	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%
年齢	2.20～29歳 (N=42)	42 100.0%	3 7.1%	17 40.5%	22 52.4%	0 0.0%
	3.30～39歳 (N=81)	81 100.0%	14 17.3%	36 44.4%	30 37.0%	1 1.2%
	4.40～49歳 (N=91)	91 100.0%	12 13.2%	44 48.4%	35 38.5%	0 0.0%
	5.50～59歳 (N=79)	79 100.0%	8 10.1%	48 60.8%	23 29.1%	0 0.0%
	6.60～69歳 (N=74)	74 100.0%	15 20.3%	35 47.3%	23 31.1%	1 1.4%
	7.70歳以上 (N=77)	77 100.0%	19 24.7%	22 28.6%	33 42.9%	3 3.9%
	無回答 (N=3)	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%

7) 宜野湾市の取り組みについて

- 市食生活改善推進員の認知度については、「まったく知らない」が約7割となっており、市食生活改善推進員の認知度は低く、活動の周知が課題となっています。(図 23)
- 宜野湾市に取り組んで欲しい取り組みについてみると、「地場産物の給食での利用や直売所の増設など、地産地消の推進」が最も多くなっており、次いで「早寝・早起き・朝ごはんの推進など、子どもの生活習慣確立の促進」「栄養バランスに関する食の判断力・選択力の習得の推進」の順に続いています。(図 24)

図 23 (問 38) あなたは市食生活改善推進員がどのような活動を行っているか知っていますか

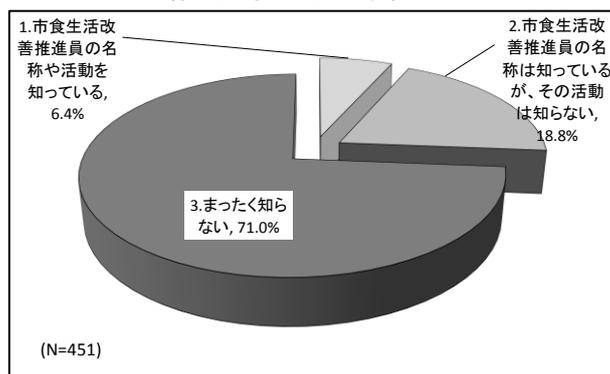
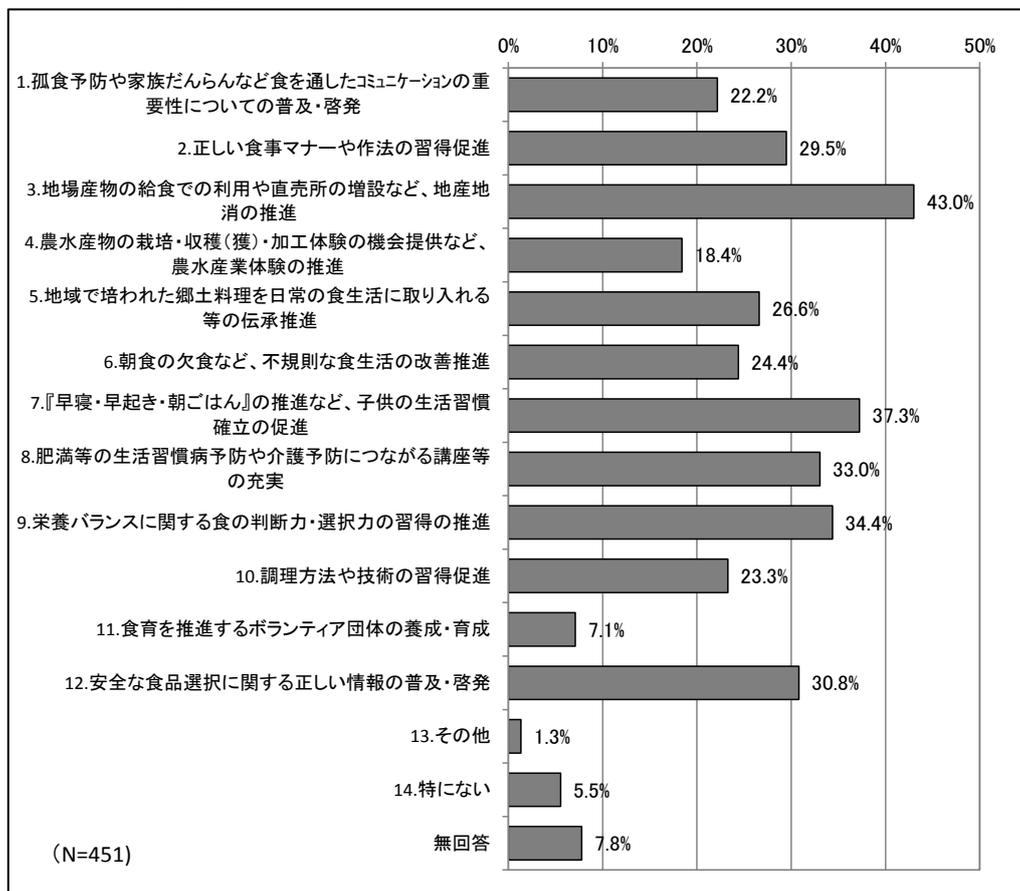


図 24 (問 40) あなたが「食育」において宜野湾市で重点的に取り組んで欲しいと思う内容を選んでください



8) 食育に関するご意見・要望など（自由意見）

- 行政への意見要望については、「大人は食育の情報を入手する機会が少ない」「食育について、特産物、市の取り組みについてもっと周知・啓蒙してほしい」「このアンケートで市が食育に取り組んでいることを知った」「地産地消推進のため子どもたちが体験できる場所や施設をつくり、地域の事に関心を持てるようにしてほしい」等の回答がみられた。
- 学校・保育所等での取り組みに関することについては、「給食のアレルギー対策をしっかりと行ってほしい」「給食に地元の食材や郷土料理のメニューをもっと増やしてほしい」「食育の教育は学校ではかなり理解されているように思う」「幼稚園から食育を取り入れてほしい」等の回答がみられた。
- 家庭・家族・会話に関することについては、「子どもの頃から過程で食の継承や手作りが食卓にのぼる過程を話し合ったり、親子で野菜収穫の体験をするのも良い」「子どもたちが学校帰りにコンビニやファーストフードで買い食いをしているのをよく見かけます」「食事の材料を一緒に買いに行って、一緒に作り片づけるまでの時間も大事」「食育を大事にしていきたければ家族内での少しの会話から始まると思っている」「朝食は必ず取る習慣を身につけることは、子どもの頃から母親が教えることだと思う」「“できるだけ” “がんばっているところを共感” で食育を難しく考えずできることからやってみてほしいと思う」等の回答がみられた。
- 地産地消・農産漁業の活性化に関することについては、「宜野湾市には地産地消に該当する商品が少ないのではないかと」「地元のスーパーを利用すべし、地元の物を食べるようにしよう」「ゆいマルシェに魚を買いに行っても、なかなか良いものがないのでもっと種類を増やしてもらえるとうれしい」「月1回のペースで、地元の物を使っての“〇〇市”などが開かれるとよい」等の回答がみられた。
- 健康・食生活の改善に関することについては、「子どもたちが太っている」「沖縄の人がよく利用するお弁当屋、惣菜の調理方法を改善できないか、油を多めに使った炒め物揚げ物が多い」等の回答がみられた。
- 食文化の伝承に関することについては、「米を食することは農家の方があってのこと、そこには感謝の気持ちで米一粒も残さず食してほしい」「郷土料理の歴史や庶民の一般的な食生活を現代の人々が知ることも大切な食育だと思う」「機会があれば宜野湾市の特産物を使った料理に挑戦してみたい」等の回答がみられた。